

2004 年度 委員会活動成果報告

(H 1 7 年 3 月 2 0 日 作 成)

委員会名	木造伝統構法小委員会	主 査 名 : 大橋好光
所属本委員会 (所属運営委員会)	構造委員会 (木質構造運営委員会)	委員長名 : 西川孝夫 主 査 名 : 鈴木秀三
設 置 期 間	2 0 0 1 年 4 月 ~ 2 0 0 5 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画	伝統的要素技術を用いた木質構造の設計法をまとめる。2001年度:伝統的構法に関する研究資料の収集。2002年度:伝統的構法に関する研究資料の整理・分析。2003年度:「設計の手引き」作成に向けての資料集のまとめ。大会でのPDの開催。2004年度:「設計の手引き(案)」の作成に向けての詳細検討。	
委員構成 (委員名(所属))	大橋好光(熊本県立大)、腰原幹雄(東大)、河合直人(建築研究所)、田中裕樹(鹿島建設)、花里利一(大成建設)、小堀徹(日建設)、木村正彦(東急建設)、藤田香織(都立大学)、古川洋(安芸構造設計事務所)、河内武(清水建設)、宮谷慶一(文化財建造物保存技術協会)、西和彦(文化庁)、	
設置 WG (WG 名 : 目的)		
2004 年度予算	1 5 0 , 0 0 0 円	

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	4/26(7), 6/3(7), 7/12(6), 9/9(7), 10/21(6), 11/25(6), 1/13(7), 2/21(5)
得られた成果	(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無)
	「設計の手引き(案)」の作成に向けての各章の詳細検討を行った。「設計の手引き」は、2003年夏の大会PDの際にまとめた「伝統的木質建造物の耐震設計技術資料」をもとにして、設計規準のようにまとめることを予定している。具体的に、各章の内容を検討した。全体の約70%については、規準案としてまとめることができた。最終的にまとめられた場合には、「伝統的木質構造の耐震設計の手引き」として、学会出版物として販売する予定である。
目標の達成度	(当初の活動計画と得られた成果との関係) 当初の活動計画は、この年度で最終的な原稿案まで作成予定であったが、約70%が終了するに留まった。これは、伝統的な構造要素の設計は、新しい分野が多いため、実験結果との照合や提案された設計法の妥当性など、各項目の検討に時間を要したためである。
その他評価すべき事項	